

広汎性発達障害の早期スクリーニングと療育

自閉症への早期介入

—診断の前にできること、
診断の後で考えること—

2007.2.10

愛知県心身障害者コロニー

中央病院児童精神科

吉川 徹



自閉症の早期発見と早期介入



- 自閉症に関する早期発見、早期介入の大切さは広く認識されてきています。
- 最近では0歳台から、気になる子どもを見つけて、療育を行う先駆的な研究が始まっています。
- しかし実際には早期に発見できなかったケースも少なくありません。



最初に気付く人は誰？

- 発達障害...かもしれない
- ちょっと他の子と違うかも
 - 保健師
 - 保護者
 - 保育士、幼稚園教諭
 - 小児科医、耳鼻科医、看護師

ケース1

健診で気付かれる



- 1歳6ヶ月または3歳児健診で気付かれる
 - 保健師による子育て相談、言葉の相談

- 健診事後グループ
- 子育て支援グループ



保育園、幼稚園



療育機関

ケース2

保護者が気付く



- まず身近な子育て相談機関へ
 - 子育て支援センター
 - 家庭児童相談室(福祉事務所)
 - 保健センター
- より専門的な相談機関へ
 - 児童相談センター
 - 発達障害者支援センター
- インターネット、書籍などでの情報収集

ケース3

保育園、幼稚園で気付かれる



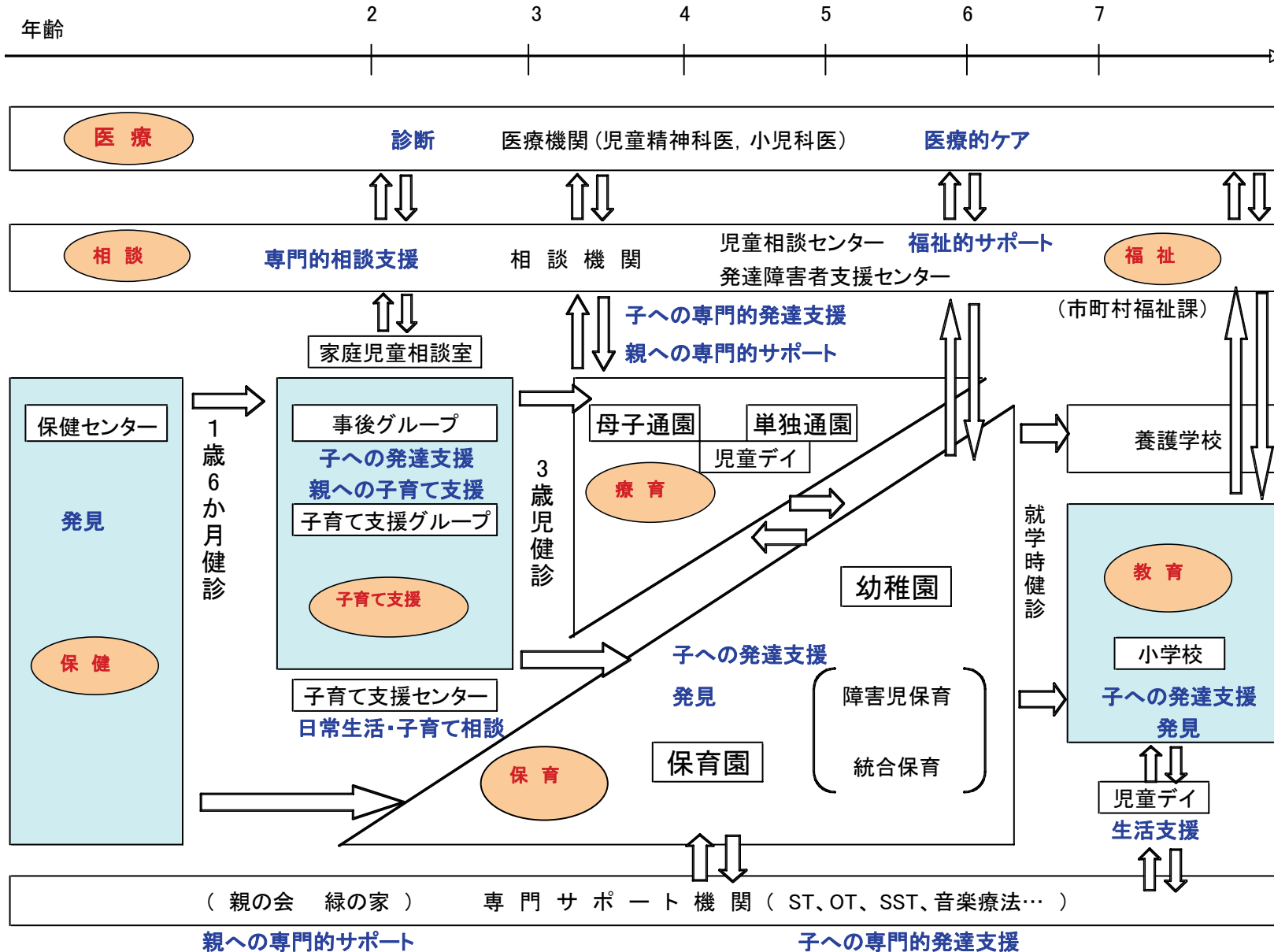
- まず園で何に取り組むか
- 家族にどのように伝えるか

- 児童相談センターなど専門機関での相談

- いきなり病院受診を勧められることも・・・

諸機関の連携

あいち発達障害者支援センターによる(一部改変)



診断は早ければ早い程よい？



Yes or No ?

Yes !

でもほんとうにそうなの？



結婚にいたるプロセス

- 一目惚れ → うちの子は他の子とちょっと違う？
- お見合い → 健診で言葉が遅いと言われました。
- 交際期間 → 園の先生と相談しながら関わってみた。
- 結納 → 児童相談センターに行ってみました。
- 同棲期間 → 療育センターに通い始めました。
- 結婚式 → 病院で診断を受けました。
- 入籍 → 療育(愛護)手帳を申請しました。

全てのプロセスを踏んでいく必要もない。

相談機関の役割



- 最初の相談機関
 - 保健センター
 - 子育て支援センター
 - 家庭児童相談室
 - 市町村担当課
- 専門的な相談機関
 - 児童相談センター
 - 発達障害者支援センター

- 相談機関の役割
 - 観察すること
 - どこをみればいいのか
 - どんな理解ができるのか
 - 最初の一步は？
- つなぐこと
 - 子育て支援グループ
 - 療育機関
 - 保育園, 幼稚園
 - 専門相談機関、医療機関



療育機関の役割

- 母子通園
 - 母親を頼りにすること
 - 母親のいるところで、他の大人と関わりを持つこと
- 単独通園
 - 家族以外の大人との関係を確立する
 - 少人数の環境で他の子どもと同じ時間に、同じ場所で、同じことをする習慣を



保育園、幼稚園の役割

- 他の子どもをモデルとして
 - 前提として必要な力
 - 他の子どもへの興味
 - 真似る力
 - 仲立ちをする大人がいると、学べることがずっと多くなる

「仮に」理解して 「実際に」支援すること



- 支援の入り口はまず疑うこと
 - 支援を始める時に診断はいらない
- 最初の理解は「仮」でよい
- 大切なのは「実際」に支援を始めること

軽度発達障害のある子のライフサイクルに合わせた理解と対応
—「仮に」理解して、「実際に」支援するために
田中康雄著 学習研究社



「仮の」理解のために

- 自閉症を疑った時に、観察するポイント
 - 物との関わり
 - 人との関わり
 - 人への興味
 - コミュニケーションの力
 - 感覚の偏り



物との関わり

- 物理的な性質への興味
 - 音、肌触り、舌触り、噛み心地、形、動き
- おもちゃをそれらしく(見立てて遊ぶ)
 - ミニカーを走らせる
 - 人形を抱く
- 道具の使い道がわかる
 - スプーン、フォーク...



人との関わり(1)

- 母親、家族との関係
 - 要求を示す行動があるか
 - 困った時に助けを求める行動があるか
 - 離れると不安になる様子があるか
 - 行動を真似ることがあるか
- 他の大人との関係
 - 母親のいるところでうまく関われるか
 - 母親がいなくてもうまく関われるか



人との関わり(2)

- 他の子どもとの関わり
 - 他の子どものやっていることに興味がありますか
 - じっと見ていることがありますか
 - 近づいていくことがありますか
 - 行動を真似ることがありますか
 - その場で？ 後で？
 - 一緒に行動することがありますか
 - やり取りのある遊びができますか



感覚の偏り

- 小さな音にも敏感？
 - 苦手な音はない？
 - 耳を塞ぐことはない？
- 手触りの敏感さ？
 - 手にざらざら、べたべたしたものがつくのは嫌い？
 - ちくちく、ごわごわの洋服が嫌い？
- 味覚の敏感さ
 - 極端な偏食はない？

身近な人が「仮の」理解に たどりつかないと支援は始まらない



- 誰かが気づき、「仮に」理解するところから
- 「実際」に支援しながら理解を修正していく
- 日常接している人に気づきがない限り、医師や専門家には伝わらない



最初の一歩

- まずは物の扱い方
 - 真似っこは苦手
 - 手を添えて動作をおぼえてもらう
 - できるようになったら、ステップの後ろから手を離す
- 日常生活の動作を身につける
 - おまるにまたがる、トイレに座る...
 - スプーン、フォークを使う...
 - パンツをおろす、あげる...


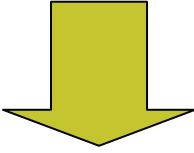


最初の一歩

- 人との関わり
 - まず要求の表現を
 - 近づいてくる、手を伸ばす、体に触れる...
 - 声を出す、ジェスチャー、カードを渡す...
- 役に立つ「道具」になることから

「仮の」理解と支援の実績をもって 保護者との相談を始める



- 「発達障害があると思うので病院で見てもらってください」

- 「仮の」理解とそれに基づいて行った介入の結果に基づいて考える

- その子どもの持つ特徴と、発達障害の子どもの持つ特徴に共通する部分があることを伝え、さらによく理解するために受診を勧める。



診断の時に気をつけること

- 過去の記録を持っていく
 - 母子手帳、育児日記
 - 保育園、幼稚園の連絡帳、お手紙
 - 大事なポイントには付箋を
- 気になる行動などはメモにまとめておく
- できれば両親で受診する



診断を受けた後で考えること(1)

- これまでの「仮の」理解を再確認すること
 - 必要があれば修正を
- 「仮」の理解を整理すること
 - 診断と結びつけて、解釈してみる
 - 気付いていない特性がないか、見直してみる
- 今取り組んでいる課題を見直す



診断を受けた後で考えること(2)

- 医療のアドバンテージはライフサイクル全体が視野に入りやすいこと

- 将来にむけて
 - 就園にむけて
 - 就学にむけて
 - 働くイメージ



診断を受けた後で考えること(3)

- 身につけて欲しいものは何ですか。
 - どんな技術を身につけるとよいでしょうか
 - どんな生活習慣を身につけるとよいでしょうか
 - どのようなお約束ができるとよいでしょうか

「明るく元気に働く大人になります」



元気で働く大人になるために

- 何のために働くのですか
 - 労働者になる前に、消費者になること
 - 楽しめることはありますか
 - 自分の楽しみを選ぶ力
 - 労働と報酬の関係を理解すること
- どうやってコミュニケーションしますか
 - わかってあげる努力
 - わかってもらう工夫
 - メッセージの伝え方の工夫
 - メッセージを送る技術を伝える



診断を受けた後で考えること(4)

- 周りの人達を巻き込んでいくこと
 - 父親(母親)
 - 祖父母、親族
 - 同級生、同級生の保護者
 - 上級生
 - 近所の人
 - お店の人
 - 福祉関係者
 - おまわりさん・・・